様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３４０１０１０

研究課題名（和文）東南アジア大陸山地部の社会経済ダイナミズム―駆動力としての多言語ネットワーク

研究課題名（英文）Linguistic networks in the Socio-Economic Dynamism of Montane Mainland Southeast Asia

研究代表者
Ｂａｄｅｎｏｃｈ　Ｎａｔｈａｎ（Badenoch, Nathan）

京都大学・白眉センター・准教授

研究者番号：５０５９９８８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　10,900,000円、（間接経費）　3,270,000円

研究成果の概要（和文）：本科研では、東南アジアにおける多言語社会の現状と動態を調査し、民族誌的記述と地域研究的・学際的な分析方法によって住民社会で形成されてきた言語ネットワークを明らかにした。この研究テーマは、先行研究ではかつて取り上げられたことがなく、現代の東南アジアにおける地域社会のダイナミズムに関する貴重な知見が多く得られた。また東南アジアに限らず、言語多様性という特徴は、人類に普遍的なものであり、21世紀の現代社会をどう考えるか、という問題の考察にも貢献した。

研究成果の概要（英文）：This project has conducted in-depth ethnographic research into the dynamics of multilingualism that characterize the vast majority of Southeast Asian society. Based on intensive fieldwork, an ethnographic account of multilingualism has been developed,highlighting the networked approach to language use taken by local people in northern Laos as they face a rapidly regionalizing and globalizing economy. This research has highlighted not only the threats that globalization poses to the region's linguistic diversity, but also the important ways in which the use of multiple languages provides a social resource for those people. The insights gained from this dynamic region are valuable locally, as the linguistic implications of rapid socio-economic development have not yet been treated, and relevant more broadly, as the future of human diversity is a major concern in the consideration of society's trajectories in the 21st century.

研究分野：人文学D

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：東南アジア社会変動　言語多様性　多言語社会　言語ネットワーク　ラオス

１．研究開始当初の背景

東南アジア経済圏の統合が急速に進む中、地域社会は様々な側面で急激に変化している。グローバル化が進行する状況において、各地域の文化はどのような影響を受け、また地域の人々の不確定な将来にとっていかなる意味・意義をもつか、という問題を明らかにするのが一つの大きな課題である。例えばラオスの北部では、中国市場に販売する換金作物を作るため、幹線道路沿いに集まる山地民は多民族混住農村を形成する傾向が著しい。多彩な言語を操るのが当然なこの地域でも、かつてなかった複雑な多言語社会が作られつつある。変動する経済・生態・社会状況の中で、言語能力は貴重な資源であるが、ラオス国語や中国語をはじめとする有力なリンガ・フランカの影響を受けながら、地域コミュニティーは様々な状況に応じて言語を選択し、地域経済の変動に対応している。

２．研究の目的

世界で話されている言語は 6000 を上回るが、一週間にひとつのペースで言語は消滅していくとも言われている。市民社会を統合するために公用語を制定する必要がある、という考えは国民国家の政策に反映されることが多い。しかし、全世界を見ればひとつの言語しか使われない社会は少ない。本研究は、多言語社会のメカニズムと動態に焦点を当てながら、言語の多様性は人間社会にとってどのような意義や価値をもつか、について考察することを目的とした。特に、言語多様性の非常に高い東南アジアでは、急速に進む近年の地域経済統合や、それにともなう地域住民の生業形態の変容が見られる。そこで本研究では、言語使用状況とその傾向に関するフィールドワークに基づき、、多言語社会のエスノグラフィーの執筆を目指した。

３．研究の方法

本研究では、地域に密着した調査を実施するとともに、それを民族誌的に記述することを基本的な方法とした。分析方法を具体的に述べると、(1)生業における変化、(2)言語使用現状と傾向、(3)ネットワーク形成の３つのアプローチから成っている。研究分担者、協力研究者とラオス国立大学をはじめとする現地パートナーと連携し、徹底的なフィールド調査を行った。

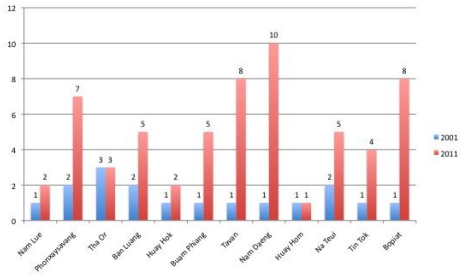
４．研究成果

研究代表者・分担者の現地調査により、上記３点の分析に必要な質の高いデータを収集することができた。「主な成果」では、そのデータに基づいた分析結果を５点にまとめ、その国内外での発表活動を「位置づけとインパクト」で説明する。最後に、このデータと分析をふまえて、「今後の展望」について言及する。

(1)主な成果

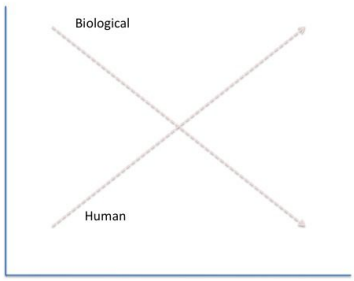
①　ラオス北部においては、地域経済統合の動態によって人間の多様性は完全に再編されたことが明らかになった。調査した 10 か村は、この 10 年間の間に平均約２００世帯の多民族が混住する状況が生じ、場合によっては 10 以上の異なる言語が話される状況になった。国語であるラオス語の共通語化が強まり、少数派の言語が弱まるというパターンはよく見られる。一方、多言語使用の規範が新たに作り出される村も少なくなく、近年の村の形成・拡張過程によって話者の極めて少ない言語でも安定した状態で伝承されるものもある。

Ethnolinguistic diversity

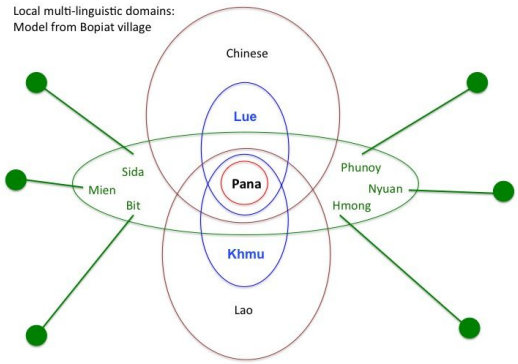


② 農村レベルでは、文化的多様性が急速に上がるのに対して、生態的多様性が著しく下がる傾向がある。村人の生きる景観は焼き畑を中心とする多様性の高い生態モザイクから、ゴムと水田という二次元の単純なものに変わってきた。生物の多様性が低くなるにつれて、現地コミュニティーでの伝統的生態知も失われ、今後の環境・経済変容に対する適応能力も弱化している。

Reorganization of Diversity at Village Landscape Level



③ 人の 激しい動きによって分散してしまう最少数派の民族は、言語の希少化が早まるばかりである。点在している道沿いの村をつなげるネットワークを形成する民族は、話者コミュニティーを拡大することによって言語の継承の見込みはあるものの、長期的に見ればこういった状況における民族の言語はこの先 30 年の間に使われなくなる可能性が大きい。ミクロレベルでの言語使用における秩序は、強制移住政策、自発的移動、土地の再分配、民族間の力関係などを含む村の形成過程と密接に結びつけられている。この結果として見られる言語使用のパターンは、基本的に下位の言語を取得しない、社会地位の高い言語をめざすマルチリンガリズムが象徴的であるヒエラルキーよりも、個人話者と話者コミュニティーの横つながりによる多方向的なネットワーク型マルチリンガリズムである。



④ 中国経済とのつながりを深めるラオス北部では、中国語よりも国境を跨いで住む民族集団同士の言語の方が重要であることが明らかになった。予想される中国語の波の代わりに、越境する民族語のネットワークによって、農業技術や市場情報を獲得し、ラオス北部の経済変容を駆動することがわかった。同時に、ラオス政府が提供できないサービスに関しては、現地語で行われる交渉や取引が大きな役割を果たす。

⑤ 言語使用の状況及び言語ネットワーク形成を調べる過程で得られた希少言語の記述も成果として挙げられる。シダ語、ビット語、パナ語の３つの希少言語の語彙・文法・伝統的生態知などを記録することによって、変容する環境・社会における言語の実態を把握するとともに、人間と生態のつながりを異なる視点から観察することができた。

(2)位置づけとインパクト

本研究の課題は、東南アジア地域研究でかつて見られなかった社会現象を取り上げたものであるため、新しい知見が多く得られた。そのため、研究成果はさまざまな分野の国際学会で発表した。特に、言語学分野では国際シナ・チベット言語学会議や東南アジア言語学協会で口頭発表をし、アジア地域研究分野では国際アジア研究者会議やアジア学協会でも論文を発表した。人類学、言語学、地理学や開発学の専門家と有意義な議論ができた。調査地であるラオスでは、今まで分析の対象にならなかった社会言語諸問題を国立大学でとりあげることによって、地域の希少言語や文化多様性に関する新たな関心を引き出すことができたといえる。

(3)今後の展望

今後は、本研究で収集・分析したデータを、著書にまとめることが最優先になる。平成２６年中には原稿を仕上げる予定である。また、本研究の問題意識・分析枠組み・研究方法をミャンマーで本格的に適用し、経済開発・生態変動・文化多様性という３つの動態が交差する場で調査を続ける必要がある。方法論としては、伝統的生態知を扱うツールを開発することにより、人間と生態の両者の多様性を統合させた研究を発展させていきたいと思う。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

1. Badenoch, N. and S. Tomita. 2013. “Mountain People in the Muang: Creation and Governance of a Tai Polity in Northern Laos”, *Southeast Asian Studies*, 2(1), 29-68. (peer reviewed) 査読有.
2. Kojima, T. and N. Badenoch. 2013. “From Tea to Temples and Texts: Transformation of the Interfaces of Upland-Lowland Interaction on the China-Myanmar Border, *Southeast Asian Studies*, 2(1), 95-132. (peer reviewed). 査読有.
3. Hayashi, Norihiko. 2013. “Youle Jino Adjectives and Their Semantic Mapping”, *Kobe Gaidai Ronso*, 64(3), 9-22. 査読有.
4. Badenoch, N. 2013. “Dealing with Diversity: Language Policy in Southeast Asia” (review of The Language Difference: Language and Development in the Greater Mekong Sub-Region (Djite 2011) and English as a Lingua Franca in ASEAN: A Multilingual Model (Kirkpatrick 2010), *Southeast Asian Studies*, 1(1), 170-173. 査読有.

〔学会発表〕（計　8　件）

1. Badenoch, N. and B. Paphaphan. “Multilingual Landscapes in Laos: Development, Demographics and Diversity”, Association of Asian Studies Annual Conference, 29 March 2014, Philadelphia, U.S.A.
2. Badenoch, N. “Transboundary Language: Movement of Culture and Ideas across the Sino-Lao Border Area”, Second Hakubi Symposium (invited lecture), 6 March 2014, Hakubi Center for Advanced Studies, Kyoto University.
3. Hayashi, N. “Origins of Jinuo Fricatives”, LFK Society Young Scholars Symposium (invited presentation), 12 August 2013, University of Washington, Seattle, U.S.A.
4. Badenoch, N. “The Rishi and The Buddha: Interethnic Relations in the Construction of a Buddhist Space in the Northwest of Laos”, Eighth International Convention of Asian Scholars, 23 June 2013, Macau, SAR China.
5. Badenoch, N and G. Diffloth. “Ruma’ay Glottalized Vowels in Historical Context”, 23rd Annual Conference of the Southeast Asian Linguistics Society, 29 May 2013, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand.
6. Hayashi, N. “Loanwords in Youle Jinuo”, 23rd Annual Conference of the Southeast Asian Linguistics Society, 29 May 2013, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand.
7. Badenoch, N. “Transnational Local Minorities: Push and Pull Across the Sino-Lao Border”, Kyoto-Cornell International Workshop: Trans-National Southeast Asia Paradigms, Histories and Vectors, 12 January 2013.

8. Badenoch, N. “Does Language have a Natural Lifespan? Divergence, Convergence and Language Death in Southeast Asia”, Institute of Sustainability Science International Symposium on Cycle and Span of Sustainability (invited lecture), 23 November 2012, Uji Obaku Plaza, Kyoto University.

〔図書〕（計　7　件）

1. **富田晋介、ネイサンバデノック、言叢社、タイ文化圏における人口増加率――九七一年から二〇〇六年におけるラオス北部の一村の経験から―、クリスチャンダニエルス（編）『東南アジア大陸山地民の歴史と文化』,2014, 348(247-276).**
2. Diffloth, G. and N. Badenoch. Austroasiatic Languages of China, in Behr (ed) The Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics, Brill (accepted 2014, in print)
3. Badenoch, N. Lexicon of the Bit Language, with cultural notation. Linguistic Diversity of Northern Laos Working Paper No. 7, Vientiane, 2013, 177.
4. Badenoch, N. “The Official Voice of Ethnicity: Minority Language Radio in the Lao P.D.R.”, NUOL/CSEAS Linguistic Diversity Working Paper Series, Vientiane, 2012, 19.
5. Kitamura, Y. Chinese in the Linguistic Landscape of Jakarta: Language Use and Signs of Change, Kitamura Y, Foulcher et al (eds) Words in Motion: Language Discourse in Post-New Order Indonesia”, ILCAA Tokyo University of Foreign Studies, 2012, 312(212-233).
6. Badenoch, N. (translation) Chinese in the Linguistic Landscape of Jakarta: Language Use and Signs of Change, Kitamura Y, Foulcher et al (eds) Words in Motion: Language Discourse in Post-New Order Indonesia”, 2012, 312(212-233).
7. Tomita, S. and N. Badenoch. 2011. The Preservation, Compilation and Reading of Lanten Yao Traditional Texts in Northern Laos: **戒弟子** The *tjei sei* ritual books, National Library of Laos, 469.

６．研究組織

(1)研究代表者

ネイサンバデノック（Nathan Badenoch）
京都大学白眉センター・准教授
研究者番号：5059884

(2)研究分担者

林範彦　（HAYASHI, Norihiko）
神戸市外国語大学・准教授
研究者番号：40453146

富田晋介（TOMITA, Shinsuke）
ペンシルベニア州立大学・研究員
研究者番号：60378966

(3)連携研究者

北村由美　（KITAMURA, Yumi）
京都大学付属図書館・准教授
研究者番号：70335214

小林知　（KOBAYASHI, Satoru）
京都大学東南アジア研究所・准教授
研究者番号：20452287

祖田亮次　（SODA, Ryoji）
大阪市立大学・准教授
研究者番号：30325138